

## バイエルン青少年オーケストラ合宿・演奏会成果報告書

| 学年   | 専攻<br>(楽器等名) | 担当楽器   | 期間      |
|--|--------------|--------|---------|
| 1  | 器楽専攻(コントラバス) | コントラバス | 夏期(2週間) |
| <b>1. 実施概要(具体的に)</b>   |              |        |         |
| <p>バイエルン青少年オーケストラ夏期合宿(7月26日～8月6日)は、7月26日にミュンヘンで集合し、8月4日までイタリア・エッパンの合宿所にてバイエルン青少年オーケストラのメンバーと共に、バイエルン放送交響楽団団員の指導のもと、パート練習とオーケストラリハーサルを行った。その後、クレードルフに宿泊先を移し、8月6日にミュンヘンにて解散した。期間中にエッパン、ブリクセン、オーベルストドルフ、スルツバッハローゼンベルクにて公演を各1回計4回行った。</p>  |              |        |         |
| <b>2. 研修を通じて自身が得た成果</b>  |              |        |         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは、ドイツ語のみで行われるレッスンに戸惑ったが、事前に基本的な音楽用語と数字を学んでいたため、どの小節から弾き始めるか、どのような音色にしたいのかなど、指揮者の指示を部分的に理解することができ、その後、徐々に耳も慣れ、異なる言語で学ぶことへの自信がついた。</li> <li>・パート練習においては、コントラバスの先生と生徒たちが英語で話してくださったので、より詳細なコミュニケーションを取ることが出来たことから、世界的な共通言語としての英語の重要性も再認識した。</li> <li>・教会や大きな野外広場など、音の響きが一般的なホールとは異なる場所で演奏した経験は、とても貴重で学びとなった。</li> <li>・ドイツの生徒の音楽への姿勢(どのように弾きたいか自分の意見をしっかりと持ち、リハーサル中にも指揮者に直接自分の考えを伝えていた)は日本ではあまり出会ったことがなかったため、自分も今まで以上に意見をしっかりと持ち、考えを言葉で伝えていく必要性を感じた。</li> <li>・自分が理解できているか不安な点については、必ず楽譜にメモし、同じプルトの生徒に確認してもらった。また、積極的に英語で質問したことで、より良い演奏やコミュニケーションの形成につながったと思う。</li> </ul> |              |        |         |
| <b>3. 反省点</b>  |              |        |         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にドイツ語で簡単な音楽用語と数字、自己紹介は覚えていったが、弓のダウンとアップを表す単語を調べていくことを失念していた。ドイツ語ではダウンをアップシュピール、アップをアウフと言い、アップシュピールがアップではないことに戸惑ってしまった。ドイツ語をしっかりと勉強していれば、指揮者の方が何を言っているかをより理解し、ドイツの生徒とも深いコミュニケーションが取れたと反省している。</li> </ul>  |              |        |         |
| <b>4. 今後の参加者に伝えたいこと(持ち物、事前学習等)</b>   |              |        |         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち物は、日本食や海外対応ドライヤー、プラグ変換器、虫よけ剤(夏期の場合)、部屋干し用ハンガーが必須と感じた。</li> <li>・事前学習については、ドイツ語の基本的な音楽用語、会話表現、数字は覚えていき、余力があれば、発展的な表現まで覚えられるとスムーズにレッスンを理解できると思った。</li> </ul>   |              |        |         |